

# 経済・金融 フラッシュ

## 貿易統計 12年3月 ～1-3月期の外需寄与度はほぼゼロに

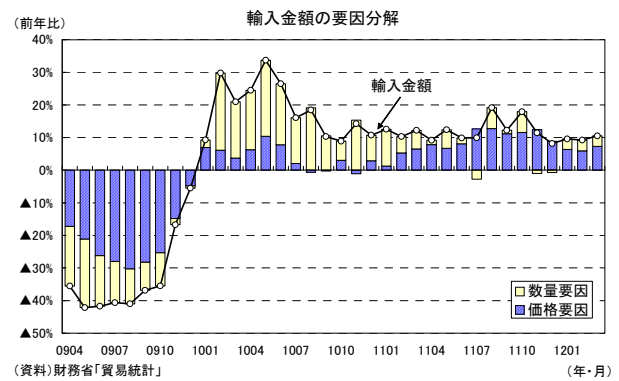
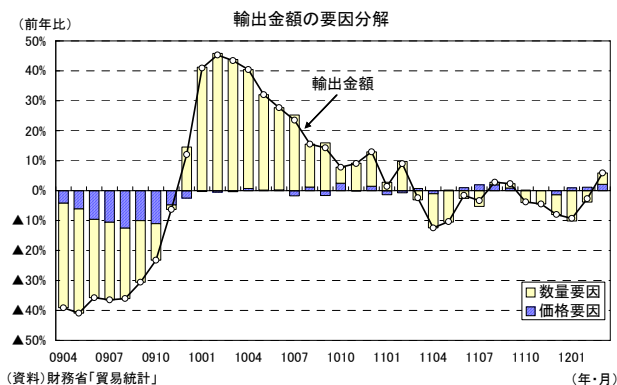
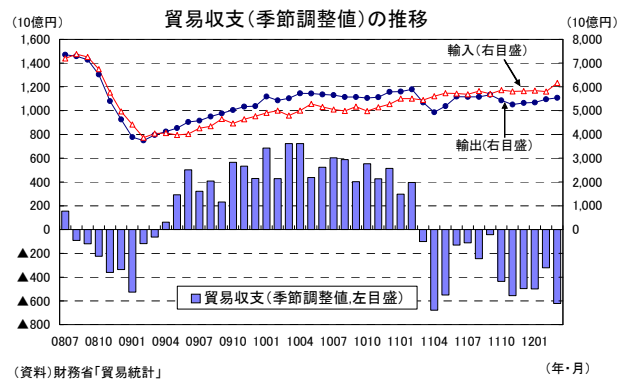
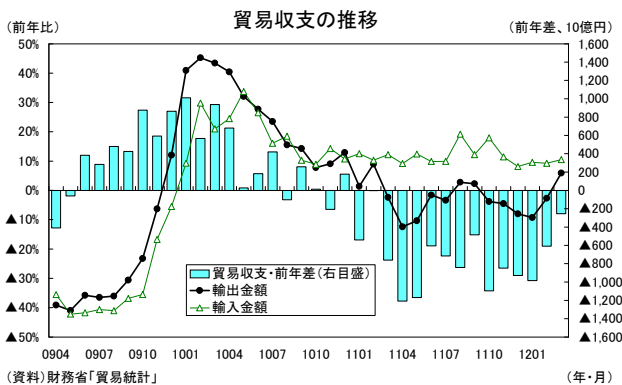
経済調査部門 経済調査室長 斎藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

### 1. 輸出が6ヵ月ぶりの増加

財務省が4月19日に公表した貿易統計によると、12年3月の貿易収支は▲826億円と2ヵ月ぶりの赤字となったが、事前の市場予想（QUICK集計：▲2,276億円、当社予想は▲1,797億円）を大きく上回った。輸出は前年比5.9%（2月：同▲2.7%）と6ヵ月ぶりの増加、輸入は前年比10.5%と2月の同9.2%から伸びを高めた。輸出は上中旬時点では前年比▲7.3%の減少となっていたが、下旬は前年比で30%を超える高い伸びとなった。これは、東日本大震災の影響で昨年3月下旬から輸出が大きく落ち込んでいたことによる。3月の輸出を季節調整値で見ると、前月比1.2%（2月：同2.5%）の伸びにとどまっており、輸出が実勢として大きく加速したわけではない。

季節調整済の貿易収支は▲6,213億円の赤字となり、2月の▲3,214億円から赤字幅が大きく拡大した。輸入が前月比6.3%となり、輸出の伸び（1.2%）を大きく上回った。



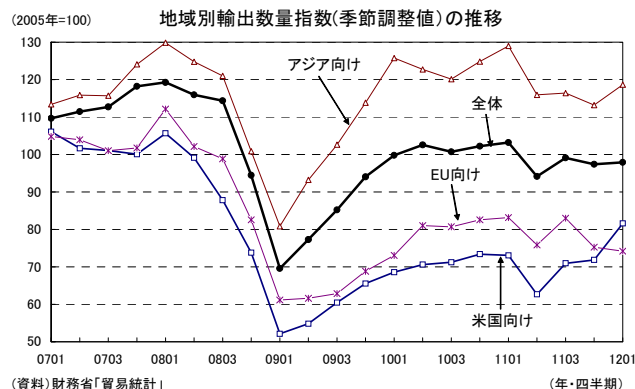
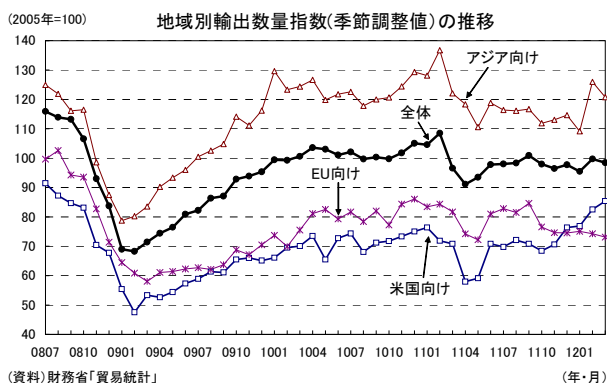
輸出の内訳を数量、価格に分けてみると、輸出数量が前年比 3.7% (2月:同▲3.8%)、輸出価格が前年比 2.1% (2月:同 1.2%) であった。輸入の内訳は、輸入数量が前年比 3.1% (2月:同 3.2%)、輸入価格が前年比 7.2% (2月:同 5.8%) であった。

## 2. 米国向け輸出数量は震災前の水準を大きく上回る

3月の輸出数量指数を地域別に見ると、米国向けが前年比 20.3% (2月:同 14.8%)、EU向けが前年比▲10.4% (2月:同▲11.4%)、アジア向けが前年比▲0.7% (2月:同▲8.0%) となった。季節調整値(当研究所による試算値)では、米国向けが前月比 3.5%、EU向けが同▲1.5%、アジア向けが同▲4.1%、全体では同▲1.3%となった。

1-3月期の輸出数量指数を季節調整値(当研究所による試算値)で見ると、米国向けが前期比 13.6% (10-12月期:同 1.3%)、EU向けが前期比▲1.5% (10-12月期:同▲9.3%)、アジア向けが前期比 4.8% (10-12月期:同▲2.8%)、全体では前期比 0.5% (10-12月期:同▲1.7%) となった。景気悪化が鮮明となっているEU向けは低迷が続いているが、アジア向けが持ち直しつつあることに加え、米国経済の堅調と円高の修正を背景に米国向けが高い伸びとなり、輸出全体を押し上げる形となっている。米国向けの輸出数量(季節調整値)は東日本大震災前の水準をすでに大きく上回っている。

一方、1-3月期の輸入数量指数(季節調整値)は前期比 1.9%となり、10-12月期の同 0.4%から伸びを高めた。



## 3. 1-3月期の外需寄与度はほぼゼロに

3月までの貿易統計と2月までの国際収支統計の結果を踏まえて、1-3月期の実質GDPベースの財貨・サービスの輸出入を試算すると、輸出、輸入ともに前期比 2%程度の伸びとなることが見込まれる。この結果、1-3月期の外需寄与度は前期比でほぼゼロ% (10-12月期は同▲0.6%) となることが予想される。

当研究所では鉱工業生産、家計調査、建築着工統計等の結果を受けて、4/27のweeklyエコノミストレーダーで1-3月期の実質GDP成長率の予測を公表する予定である。現時点では、外需が成長率に対してほぼニュートラルとなる中、個人消費、公的固定資本形成を中心に内需が高めの伸びとなることから、前期比年率 2%台のプラス成長を見込んでいる。

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。